



MON Nara 通信



Numéro 24

Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会

AVRIL 2026 4月

これからの催しご案内

第158回フランス・アラカルト「海と山 豊かな自然の町 鳥羽市の国際交流」

昨年のガイドクラブ「聖林寺と安倍文殊院訪問」のときに、ゲストとして来られていたので、参加された方はおなじみだと思いますが、鳥羽市の国際交流員として活躍されているブランシェ・ドリアンさんをお招きして、フランスから見た鳥羽市の魅力について語っていただきます。フランス語と日本語の両方でお話しいただく予定です。

- ❖ 日時: 5月17日(日) 15:00~17:00 開場: 14:30
- ❖ 会場: 生駒市たけまるホール 研修室1・2 (近鉄生駒駅北側徒歩1分)
- ❖ 参加費: 会員 500円、一般 1000円
- ❖ 問合せと申込先: sugitani@kcn.com tel: 090-6322-0672 (杉谷)
- ❖ お話し: ブランシェ・ドリアン (鳥羽市観光商工課 国際交流員 (CIR))

❖ **ブランシェ・ドリアンさんからのメッセージ:** フランスと鳥羽をつなぐ架け橋として令和7年8月より鳥羽市の国際交流員 (CIR) として活動しているブランシェ・ドリアンです。ボルドー出身で、オルレアン大学では語学と国際ビジネスを学び、これまでさまざまな文化に触れてきました。高校時代に初めて日本を訪れたことをきっかけに日本に強い関心を持ち、日本語や日本の文化に魅力を感じるようになりました。現在は、フランスを中心とした海外との交流促進や、観光分野における連携・情報発信に取り組んでいます。具体的には、フランスの関係機関とのネットワークづくりや、鳥羽市の魅力を海外へ発信する活動に加え、地域の方々との交流を通じて相互理解を深める取り組みを行っています。また、「日仏海洋学会」などの学術・交流イベントにも関わり、海に関する研究



日仏海洋学会シンポジウム会場風景

や文化をテーマとした国際的な交流の場にも携わっています。こうした活動を通じて、鳥羽の海や地域資源の価値を国内外に伝えとともに、新たな連携の可能性を広げていきたいと考えています。本講演では、国際交流員としての具体的な業務内容や日々の活動についてご紹介するとともに、フランスから見た鳥羽の魅力についてもお話しします。特に、欧米の旅行者が重視する「本物の体験」や「地域とのつながり」といった視点から、自然や文化、人との距離の近さといった魅力を持つ鳥羽市の観光や文化の可能性について考えてみたいと思います。本講演を通じて、そうした魅力や国際交流の現場について少しでも身近に感じていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

寄稿 私の鳥羽探訪記

今はどうか分かりませんが、私の子どものころ、神戸市の小学校では、修学旅行に伊勢鳥羽方面に行くのがならわしでした。ほとんど記憶が残っていませんが、二見ヶ浦の夫婦岩と、夜宿舎で枕投げをしたのだけは覚えています。その後鳥羽には何度か行きましたが、昨年秋に大学時代の友人らと行った印象がやはり強く残っています。われわれの関心は、文芸と酒ということで、まず文芸では、明治期の浪漫詩人伊良子清白の家や、江戸川乱歩館があります。乱歩は各地を転々とした人で、鳥羽には少ししか住んでいませんが、この時期に伴侶を娶り、デビュー前の試作を重ねていたということです。もうひとり、鳥羽で忘れてはならないのは岩田準一という人で、夢二の弟子になったり、乱歩と親交を結んで、乱歩の作品に妖気的な挿絵を書いたり、柳田國男や南方熊楠と交流し、民俗研究でも名を成した奇才です。江戸川乱歩館に挿絵が展示されていました。酒の話では、鳥羽駅の山側に、サザエ、アワビなど貝類専門の居酒屋がずらりと並んでいて、昼間から賑わっています。もし鳥羽へ行かれた時は、ぜひ覗いてみてください。(杉谷健治)



高台より鳥羽湾を望む

2026 年度その他の催し

現在計画中の催しはこのほかに、第 68 回シネクラブ(9 月)で、アラン・ドロンの追悼④として、ゴダールの『ヌーヴェルヴァーグ』(1990)を予定しているほか、第 11 回美術クラブ(10 月、11 月頃)では、万葉文化館を探访する予定、秋の教養講座(11/22)では、「総合芸術としてのバレエの紹介」を予定しています。

活動記録

- ★ 3 月 1 日(日): 第 67 回シネクラブ例会「アラン・ドロンの追悼③『太陽がいっぱい』」プレゼンター: 浅井直子
- ★ 3 月 14 日(土): 第 10 回美術クラブ例会「松伯美術館特別展『上村三代と京都市立芸術大学』」鑑賞会
ナビゲーター: 柏木加代子
- ★ 4 月 12 日(日): 2026 ガイドクラブ「法隆寺訪問」
詳細報告は、Mon Nara 6 月号をご覧ください。

《2026 年度第 1 回理事会報告》…事務局

★日時: 2026 年 3 月 19 日(木) 15:00~16:10。★場所: 野菜ダイニング「菜宴」。
★出席者: 三野、浅井、中辻、高松、林、南城、西崎、米田、杉谷。★議題
1. 2026 年度会費納入額・会員数。2. 前回理事会(1/15)後の活動: 2026 年度総会(2/11)、第 67 回シネクラブ「アラン・ドロンの追悼」(3/1)、第 10 回美術クラブ「松伯美術館特別展」鑑賞会(3/14)。3. 今後の行事: 2026 ガイドクラブ「法隆寺訪問」(4/12)、第 158 回フランス・アラカルト(5/16→理事会後 5/17 に変更)、第 68 回シネクラブ(9 月)、第 11 回美術クラブ「日本美術の原点を語る(仮)」(時期未定)、2026 秋の教養講座「総合芸術としてのバレエ紹介」(11/22)。4. Mon Nara、Mon Nara 通信。5. その他: 奈良市国際交流協会助成について、ホームページについて、「大和国際音楽週間」ボランティア通訳募集、奈良県立美術館講演会(5/17)。7. 次回理事会: 5 月 21 日(木) 15:00~16:30 野菜ダイニング「菜宴」。



後記 ☆Mon Nara 通信 4 月号と会員名簿をお届けします。☆3 月の理事会から、新しい理事メンバーが加わりました。さっそく、その人ならではの持ち味を生かした助言があり、心強いかがりです。☆新年度が始まりましたが、入学や転勤、プロ野球開幕など、世の中が騒がしくなり、また蛇や熊などの動物たちも冬眠から目覚め、猫が恋を語り、植物も芽生えるなど、自然も活気づいて、何かしら空気もぬるりとしてきたように感じます。古代の人々は、我々よりも自然の移り変わりにはるかに敏感で、月の満ち欠けや、太陽が昇り沈む方角の変化、春夏秋冬の循環が、重要なこととして受け止められていたはず。冷たく死んだような冬から抜け出て、生命力の萌え立つ春を祝う祭は、世界中にあり、日本では豊作を祈願する祈年祭、西洋では、古代のディオニソス祭をはじめ、ユダヤ教の過越の祭、キリスト教の復活祭、あるいはメイポール祭なども、春を祝ったのが起源のようです。春を擬人化した女神も、日本の佐保姫、コノハナサケヤヒメ、西洋では、ボッティチェリの「春」に描かれている花と春の神フローラや、性と豊穡を司るアフロディテが知られています(いづこも男神でないのが面白い)。また西洋文学の伝統では、「牧歌」で謳われる神話的な黄金時代の楽園は、「温暖な自然、豊かな水、柔らかな光、絶えることのない春、甘美な香、天上的な音楽」(ドリュモア『地上の楽園』)として描かれます。ちなみにフランス語の「printemps(春)」のもとの意味は、「le premier temps(最初の時季)」だそうです。(杉)

- ◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
- ◆Mon Nara 誌への投稿、とくに新鮮で多様な話題、直近のフランス情報などを歓迎します。誌面の都合でご相談のうえ表現を変えさせていただくことがあります。次回 Mon Nara 6 月号は 5 月 31 日が原稿締切日です。
- ◆会員のみなさまで「Mon Nara」(2 月、6 月、10 月発行)、または「Mon Nara 通信」(4 月、8 月、12 月発行)に**チラシ同封を希望される方**は、1) 内容がフランスに関わるもの、2) 本人または代理人が発送作業に参加、の二つの条件を満たせば同封可能ですので、下記事務局までお問い合わせください。

Mon Nara 通信 2026 年 4 月 numéro 24

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : nara.afj@gmail.com

〒630-8226 奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴[郵便物のみ] 発行責任者: 三野博司